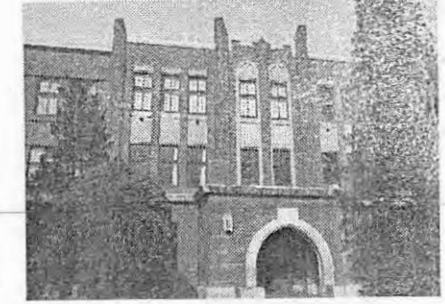


1933年建造の松本深志高校の校舎。
東大安田講堂を手本にしたと伝えられる

大好評 世代を超えて伝えられる「矜持」と「品性」

名門校ライバル物語

第8回 松本深志高等学校vs.長野高等学校

（フリーライター）小峰敦子

今回は古くから教育県として聞こえる長野県を訪ねる。東京都の6倍強という広大な面積を持つ長野県は北信（県北部）、東信（県東部）、南信（県南部）、中信（県中央）に生活圏が分かれ、県立高校もこれに準じて4通学区制がしかれている。それぞれの通学区にはいずれも100年以上の歴史を持つ有名校がある。北信には長野高校、東信には上田高校、南信には諏訪清陵高校、飯田高校、中信には松本深志高校。中でも全国区で雄を競っているのが長野高校と松本深志高校だ。

江戸時代、現在の長野県に当たる一帯は寺子屋の設置数が全国最多であった。信州の人々は教育への拠出を惜しまず、近代になって学校建設のための寄付も盛んに行われた。長野県では県立高校の名称を長野県立○○高等学校ではなく長野県○○高等学校というが、その所以（ゆえん）も、郡、町村あるいは一組合など地元の人々の手によって誕生し、後に県に移管された高校が多いことにあり、「ただの県立ではないゾ」という人々の誇りが感じられる。

信州人の教育熱について、松本市出身の国際教養大学理事長・学長の中嶋嶺雄氏（松本深志高校昭和30年卒）は、次のような仮説を立てている。

「甲斐・武田と越後・上杉が中間の川中島で戦ったわけで、信濃は長きにわたって両隣の国が争う〝戦場〟となるだけだった。明治維新でも薩・長・土・肥の陰で主役になれなかった。自分も何かやりたいという強い意欲が、人々を学問に向かわせたのではないか——私はこう考えるのです」

ただし、信州が一枚岩であったわけではなかった。明治9年に旧長野県（現在の県北）と筑摩県（県南）が合併して現在の長野県が誕生した際、県庁の設置を巡って北の長野と南の松本が対立。合併後も県庁移転の議論が繰り返され、分県運動まで起こっている。この南北戦争は教育の世界にも及んだ。師範学校や旧制中学は長野と松本の間で統廃合を繰り返したり、本校と支校がめまぐるしく入れ替わったりしている。したがって学校の沿革がややこしいのだが、まずは松本深志高校の歴史から紐解いていこう。

城下町松本は第二次世界大戦の戦禍を免れ、歴史的建造物が数多く残っている。1873（明治6）年に創設された日本最古の小学校のひとつである「開智学校」の校舎も現存し、武士も町人も同じ教育を受け、子守り奉公する少女たちも赤ちゃんを負ぶって授業に臨んだという記録が残されている。

明治9年、開智学校内に県下初の中学校が置かれた。これが旧制松本中学校の嚆矢（こうし）とされている。17年に県立の中学校になったが本校は長野に置かれ、松本は支校の一つにされた。18年に深志城（松本城の別名）二の丸に松本支校の新校舎が落成し、翌19年には一県一校制によって他の支校とともに長野本校が松本に統合されている。26年に再び分派し、松本に本校、長野ほか2ヵ所に支校が置かれた。32年にこの長野支校が独立、それぞれ校名が改称されて長野高校の前身である長野中学校、松本深志高校の前身である松本中学校の同時誕生となった。このような生い立ちゆえに、両校は生来のライバルという宿命にあるわけだ。

生徒に任せておけ

昭和23年、松本中学校は新制「松本深志高等学校（以下、深志高）」となり、翌24年に初の女子生徒が編入学した。そして2006（平成18）年、深志高は創立130周年を迎えている。

松本城の天守閣を右に眺め、閑静な住宅街の坂道を上ると、赤レンガにクリーム色の壁を配した洋館に突き当たる。昭和10年の松本城内からの移転に伴って建設された深志高校舎で、国の有形文化財に登録されている。その奥には新しい校舎があるが、階上から賑やかな笑い声が聞こえ、この古い校舎がいまも現役であることがわかる。

松本市は標高600m。訪ねた日は朝から雪が舞い、天井が高いせいか校舎は暖房中でも底冷えがした……がしかし。半袖シャツの男子生徒が目の前を横切っていく。長野の県立高の大半に制服がないことはよく知られるところだが、雪中の半袖姿には驚いた。

「旧制中学のたくましく、バンカラで、自由な気風が最も強く受け継がれているのが、この高校だと思います」

坂巻道弘校長、五味千万人（ちまと）教頭が口を揃える。各学年は8クラス、1クラスは男子21～23名、女子17～20名の構成で九百七十余名の生徒が学んでいる。坂巻校長と五味教頭は、伝統を大事に守っている生徒たちの日常につい

1995年に竣工した長野高校の校舎。
桜の名所として地域の人々に親しまれている

現代 B 二〇〇八四月号

て目を細めて語ると、「後はすべて生徒に任せておけば大丈夫」と、二人とも職員会議に向かってしまった。

後を引き取ったのは8人の生徒たちだ。生徒会長の増澤拓也君（2年）、副会長の伊東麻美さん（1年）、とんぼ祭実行委員会（以下、とん実）委員長の上條駿介君（2年）、ブソウ委員会大将の橋本佳樹君（2年）、郷友会長会会長の望月浩佑君（2年）、新聞委員会委員長の深澤孝斗君（2年）、大会議長団の勝家康太郎君（1年）、そして應援團長の小野聡子さん（2年）が「深志のことは何でもおたずねください」と胸を張った。

まず、ブソウ委員会とは何なのか。

「舞装、つまり舞台装置設置委員会です。僕はギター部ですが、深志では『自治の精神』に則り、発表する場は発表する者自身でつくります。とんぼ祭の屋内外の舞台すべてを自分たちでつくるのです」（橋本君）

とんぼ祭とは深志高の学園祭だ。他校では学園祭の特設ステージづくりは専門業者に委託されるが、深志高は発表する各団体が協力し、基礎のパイプの組み立てから照明、後片付けまで〝場〟に関する一切をやってのける。

郷友会長会会長――当の望月君も何度も噛んでしまう早口言葉のような役職だが、旧制松本中学は結社が盛んで、同じ出身地の生徒たちが自治団体を結成した。郷友会はその流れを汲むコミュニティであり、出身地ごとに三十余が組織されている。望月君は各会長によって構成される上部組織の会長というわけだ。

「とんぼ祭の灯籠コンクールに出品したり、『よひまつり（宵祭り）』に出演したりといった活動を通して、郷友会は下級生が深志の『自治の精神』を学ぶ場になっています」

郷友会やクラブが挙って参加し、クラスマッチも行われる「とんぼ祭」は例年7月、4日間にわたって開催される。

「『自治の精神』により、日程は生徒大会の可決をもって決まります。オリジナルのテーマソングやTシャツ、団扇の製作、学校の警備も準備期間中から生徒たち自身が行います」（上條君）

一般生徒たちが予算、決算にも目を光らせるので、とん実委員長はマネージメント能力も問われる大役だ。

生徒たちが必ず口にする「自治の精神」は、「自治を生命の若人は」「自治の大旗翻へし」と校歌にもうたわれるとおり、旧制中学時代から誇りとされてきた校風だ。ただ、自治の精神がゆえに苦労もある。

長い髪を学帽に隠して
――お立ち台の應援團長（左から2人目）

自治の伝統を守れ

「各自が自分の活動を重視しますので、衝突もあり、ボイコット騒ぎもあります。そんなときも先生の手を借りず、生徒同士の話し合いによる解決に導き、とんぼ祭を盛り上げるのが生徒会本部の当面の仕事です」（増澤君）

また、深志高の最高議決機関である「生徒大会」は最近、定数を満たせずに流会になったことがある。

「『自治の精神』の下、出席は各自の自由意思に任されます。出席しろとは言えないので、大会を告知するプラカードを持って校内を歩き回り、注意を喚起しています」

と、議長団の勝家君は必死だ。何より生徒の無関心が自治の伝統崩壊につながることを危惧しているのだ。生徒の〝自由意思〟と〝自分勝手〟の違いについて、上條君が明快に答えた。

「例えば、深志では上履きに何を履くかは各自の〝自由〟です。それが外履きに見えることをいいことにそのまま外に出てしまうのは〝自分勝手〟です。決して上履きのまま外に出ていかないのが深志の〝自治〟です」

應援團長は全校生徒の信任投票を経て就任する。今年は女子が就任した。クリクリとした瞳のキュートな小野さんだが、「團長としてお立ち台に上った途端に人が変わります」と増澤君、望月君、上條君が口々に言う。深志高の応援団は「應援團管理委員會（以下、應管）」といい、名称には頑なに旧字を使っている。新入生は入学早々屋上に集められ、應管による校歌の特訓を受けることになる。それは「團長さんのお顔を見ろー」の雄叫びによって始まり、1年生の伊東さんは「いったい何をされるのかとパニックに陥った」そうだ。20曲はあるという応援歌の振り付けもビシバシ叩き込まれる。それというのも深志高は全校應援團制、つまり生徒全員が應援團所属になるからなのだ。

納得！日本の言葉

3/14 金曜 友引

●期待外れ

予期していた結果や状態にならなかったことを表す言葉である。ところが、これを、〝期待倒れ〟という人が意外に多い。「今年の新人選手は、いずれも、期待倒れの結果に終わった」などというのである。

〝見かけ倒し〟や〝看板倒れ〟などということから、それと混同した結果らしい。〝見かけ〟や〝看板〟は、外から見えるものなので、実質が違っていた場合には〝倒れた〟ような状態になり、〝見かけ倒し〟などというのである。それに対し、〝期待〟は、予期するもので、それが外れた場合には〝当てが外れた〟こととなり、〝期待外れ〟という。

目標は必要か？

自分の将来の姿を明確にする。当たり前のことだが、多くの人ができていない。

私たちの教育は目標達成の重要性を伝えていくことです。

アチーブメント株式会社
http://www.achievement.co.jp
今なら、特別冊子をプレゼント

5月の屋上にはためく坂巻2号

5月の空には巨大な鯉幟（こいのぼり）を揚げる。

「昭和26年、当時の岡田甫（はじめ）校長先生が五月晴れの空を仰ぎながら『鯉幟があるといいな』とつぶやいた。これを聞いていた生徒たちが鯉幟を手づくりして揚げたのが始まりです」

小野さんが生き字引のごとく解説する。約8mの鯉幟は毎年デザインを校内公募し、應管が縫い上げ、校長が目玉を入れて完成する。昨年、就任2年目の坂巻校長は「坂巻2号」と署名した。

校庭の「小林有也（うなり）像」を磨くのも應管の仕事だ。小林有也氏とは旧制松本中学初代校長として「自治の精神」を唱えた人である。應管メンバーはブロンズの胸像に語りかけながらこれを磨き上げる。さらに、とんぼ祭ではファイヤーストームを主催するが、これが例年、大騒ぎになるという。

「消火に大量の水を掛けるので、最後は生徒同士が泥水の掛け合いになります。そして舞台上の應援團長をみんなで引きずり降ろして、泥まみれにしようとするのです」（小野さん）

果たして次のとんぼ祭では、女子の小野團長にも容赦なく暴徒が押し寄せるのだろうか。「僕たちがお守りします」――橋本君の頼もしい発言だが、ナイト精神によるものではないらしい。壇上に載ったものなら何でも守るのが、橋本君たち舞装委員なのだ。

『深志高新聞』はカラー刷りのタブロイド判で、特集、論説、コラムなど本格的な紙面づくりだ。休刊、編集長の辞任といった本格的な騒動も経験した深澤君は、1年生で新聞委員会委員長を引き継ぎ、新聞を復活させた。復活第1号の締め切りが期末考査直前に当たり、寝ずに頑張ったそうだ。

「勉強も、委員会活動やイベントに参加して社会性を身につけるのも、どちらも学生の本分だと思いますから」

深志高では1コマ65分だ。1年生の伊東さんは長い授業時間に戸惑ったが、2学期からはすっかり慣れ、そして気づいたそうだ。

「深志には確かに自由がありますが、同時に勉強する空気もあります」

65分の授業ではじっくり考えることができる。教師の個性にもじっくりつき合うことになるので、生徒はけっこう面白がるようだ。

床板でつくったバイオリン

翌日、校内を見て回った。有形文化財の校舎は濃い褐色の廊下、腰板、アーチ型の窓枠が松本民芸家具を彷彿とさせる。階段の手すりや踏み板は角がすっかりまるくなっていた。屋上からは西に北アルプス、東には美ヶ原の稜線を一望でき、小高い山の頂のようだ。ここで校歌を練習するなんて、さぞ気分いいだろうと思うのだが、

「なかなか気分がいいとは言っていられないようです」

五味教頭が笑った。應管の指導はどれだけ厳しいのか……。

一方の築7年目の校舎はまるでログハウスのように木が多用され、明るく清々しい。別棟の図書館は同窓会の寄付によって建てられた。2階の自習室ではセンター試験を目前に、3年生がラストスパートに余念がない。

同窓会は母校の130周年を記念して300人収容のホールを備える「深志教育会館」も寄贈した。建設費2億円、ホールはなんと床暖房付きだ。

同窓会会長の穂苅甲子男氏（昭和17年卒）は在学中、東京ーロンドン最短飛行時間の新記録を出した飯沼正明飛行士（昭和6年卒）の凱旋講演に感動し、東京で学ぶ先輩たちが帰省するたびに話す体験談に大いに啓発されたという。戦後、自分も母校の後輩のために貢献したいと、地元の仲間10人ほどで細々と活動を開始した。

「戦後の混乱期にあってみな、食べるのに精一杯で同窓会どころではありません。まずは『同窓会維持会』を結成し、休眠状態だった同窓会を徐々に覚醒、拡充させていきました」

先生が住むところがなくて困っていたので家を建て、次に運動部が困っていたので部室を建てた。森をつくり、図書館を建て、ついに2億円の会館を建設するまでに至ったのである。

旧校舎の一つが建て替えられた際、穂苅氏が階段部分の床板をきれいに磨いて保管しておいたところ、高校22回生（昭和45年卒）たちがこれを材料にしてバイオリン2挺（ちょう）とビオラ、チェロを製作した。そのお披露目の式典では中嶋嶺雄氏（前出）がバイオリンを弾いた。130周年記念のコンサートで

納得！日本の言葉

3/15 土曜 先負

●セブンサミッター

seven summiter。世界の7大陸の最高峰を制覇した登山家に対する尊称である。北米のマッキンリー、南米のアコンカグア、アジアのエベレスト、ヨーロッパのエルブルース、アフリカのキリマンジャロ、南極のビンソンマシフ、オセアニアのコジウスコかカルステンツが、その最高峰である。

愛知県山岳連盟会長の石川富康さん（71歳）が、1月21日に、南極大陸のビンソンマシフ（4897m）の登頂に成功。65歳で、当時の最高齢でエベレストの登頂に成功してから、各大陸の最高峰も次々に制覇。今回の成功で、最高齢のセブンサミッターとなっている。

インターネット株取引 通信講座
通信講座で株取引の基本をマスター!!
家で気軽に、株式投資がスタートできる!!
無料進呈 ▼詳しい講座案内書を無料進呈。インターネットか電話・FAX・ハガキ（係名を明記）でご請求ください。
www.happy-semi.com/nk
TEL03(3465)2012 FAX0120(161)418
〒151-8671 東京都渋谷区元代々木町14-3
日本創芸学院 月刊現代NK 322-69係

も床板でつくった弦楽器による四重奏が後輩たちによって演奏された。

中嶋氏は高校時代、生家の倒産によって生活が一変、失恋の大打撃も受けたが、バイオリンを奏で、水彩画を描き、山岳部にも所属、さらにはフランス人の祖先の名を冠した「ラ・ソシエテ・ゴーロワーズ（ゴーロワ協会）」を結成してフランス文化を論じ、とんぼ祭では凱旋門をつくるなど、深志の青春を謳歌した。

「イデオロギーを超えて原爆の非を繰り返し語った岡田甫校長、まさに自由人のフランス語の並木康彦先生、後に古代史の大家となる熱血漢・古田武彦先生、映画通の俳人・藤岡改造（藤岡筑邨）先生、『真理は平凡なり』の金言を与えてくれた平沢武男先生……素晴らしい師に恵まれたお陰です。知的にも文化的にも、そして人間的にも成長する環境が整っていました」

中嶋氏自身も東京外国語大学学長を務めた後に国際教養大学を立ち上げ、知的環境を整えるべく奔走している。

同級生には長野県知事の村井仁氏、日本百貨店協会会長・三越相談役の中村胤夫氏らがいる。

深志の文化的な風土は映画監督の降旗康男氏（昭和28年卒）、合津直枝氏（昭和47年卒）、金子文紀氏（昭和63年卒）といった多くのクリエーターを育てた。故・熊井啓監督（昭和23年卒）も夫人の明子氏（エッセイスト・昭和34年卒）によく恩師の思い出を語ったという。

「教練があり、飛行場に動員され、熊井は勉強より土運びの毎日でした。そんなご時世でも、ガリ版で教材をこしらえ、少しでも時間を見つけて授業を行い、学習を継続させることにひたむきに取り組む先生がいらした。自分もどんな時代でも変わらずに求められるものは何かを考えたそうです」

平和な時代になってからの深志高で学んだ明子氏も、「あなたは文章が書ける人だ」という教師のひと言にいまも励まされている。夫妻は2006年の秋、母校に立ち寄り、懐かしい学び舎の屋上に上ってみた。

「高校時代に私はよく上ったものですが、熊井はあまりそういう経験ができなかった。一緒に屋上に上って、一緒に昔と変わらぬ山並みを眺めることができて、本当によかった」

同窓生同士、時に摩擦が起こることもある。2006年の県知事選で、村井仁氏（前出）が同窓の田中康夫氏（現参議院議員・昭和50年卒）を破って当選したことは記憶に新しい。選挙では同窓生たちの支持が分かれ、さしもの同窓会もこの時ばかりはキナ臭さがたちこめたという。奇しくも選挙と同じ年に母校の130周年を迎え、ともに祝ったことでキナ臭さは払拭されたようだ。

金鶏健児と改築論争

長野高校（以下、長高）の歴史に目を転じてみよう。1883（明治16）年、上水内郡長野町（現在の長野市）に県下4番目の中学校である「上水内中学校」が誕生した。上水内郡連合町村会によって設立されたこの中学校は、翌年設立された長野県中学校本校にそのまま引き継がれ、先述のとおり松本との間で本校、支校が行き来した末に、明治32年に旧制「長野中学校」、昭和23年に新制「長野北高等学校」がスタートした。さらに翌24年には長野市立高等学校が統合され、25年から女子生徒が入学。初の女子生徒は2名だった。その後、校名改称の動きが出ては消え、現在の「長野高等学校」に改称されたのは昭和32年のことだ。

善光寺の北東約1・2㎞の高台に、面積約4万5000㎡の長高のキャンパスが広がっている。正門を入ると左側にレトロな木造の旧校舎、右側にスマートな新校舎が立つ。新校舎のエントランスを入ると、「本日はストーブを焚きます」と書かれた札が掛かっている。「国公立二次試験まで33日」の掲示もあって、気のせいか空気がピーンと張り詰めているようだ。

長高は「至誠一貫」「質実剛健」「和衷協同」のガッツとした校是の下、男子511名、女子382名の生徒が学んでいる。学校の象徴は「トビ」で、学園祭は「金鶏（金色のトビ）祭」、そして生徒たちは地元の人たちから「金鶏健児」と呼ばれてきた。

長高は近年、大学の現役合格率をメキメキ上げて注目されている。2007年の現役合格率は実に79・2%、現役進学率は71・8%。国公立大学の合格者が多く、東京大学には13名が合格、そのうち10人が現役生だ。ちなみに、深志高の現役進学率は約60%、東大合格者は7名（うち現役生が5名）だった。進学実績では大きく水を開けた感がある。

「秘訣など、ないのです」

小山壽一校長は断言する。週5日制が導入された際に、授業時間確保のために行事を精選した学校が多かった

納得！日本の言葉

3/16 日曜 仏滅

●樹木葬

里山などの土の中に遺骨を埋め、墓標として花木を植える葬送のこと。死後、自然の中で眠りたいと考える人や、核家族化が進み、子孫に墓地管理の負担をかけたくないと考える人などが増え、人気を集めているものである。

樹木葬は、遺骨を自然に返す散骨の一種として、一部の地域で古くから行われていたものだが、99年に、岩手県一関市に、山の環境を守ることを目的にする〝樹木葬墓地〟が登場。それが大きな話題となり、注目されたことをきっかけに、全国各地に、地方自治体の許可を受けた樹木葬の墓地が、次々に誕生している。

鹿児島の蔵より直接お届けします
特別蔵出し
薩摩自顕流
原料 米・米麹
1.8ℓ 25度
3,150円（税込、送料別途）
錦灘酒造株式会社
お問い合せ
0120-37-0895
http://www.shochu-net.com

が、それもやっていない。4月の駅伝大会、6月の春季クラスマッチ、7月の金鶏祭、9月の秋季クラスマッチ、11月の音楽会、1月のスキー教室、伝統の行事はすべて残した。

「大学進学を目指して入学した資質の高い生徒に、教師が授業で応える。それだけです。自分だけ競争に勝とうとせず、学校でお互いに励まし合って学習するように、教師たちは生徒に『受験は団体戦だ』と言っています」

かつて長高は毎年20～三十数名の東大合格者を出していた。1970年代の終盤からその数が減り始め、10名に満たない年が長く続いた。長野県の共通一次試験・センター試験の成績や現役進学率が全国的に見て著しく低いことも問題視され始め、「もはや教育県ではない」と県内の経済界、議会、マスコミが挙って危機感を露にした。不快感といってもいいだろう。

長高では「長野の教育問題は長野高校の教育問題」として、カリキュラムから授業の進め方、進路指導の方法、生徒の自習のし方まで細かく検討し、改革に取り組んだのであった。

同窓会事務局長の丸山義範氏（昭和29年卒）は当時、母校の教員をしていた。

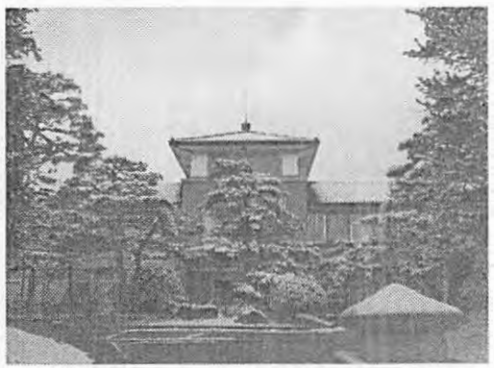
「校舎の改築を巡って賛成派、反対派が対立していました。進学実績で低迷する学校の空気を一新するためにも、私は建て替えに賛成でした」

昭和14年に建てられた校舎は、独特の木造建築であった。俯瞰すれば全体はロの字形の洋館だが、正面に仏塔風の屋根を冠し、長野のランドマークである善光寺に調和するデザインだった。昭和62年に県が全面改築の方針を伝えると、教職員、生徒、OBから反対の声が上がり、改築推進派と保存派が真っ向から対立、学校の食堂で教員同士が大ゲンカになることもあった。

善光寺の門前で信州そばの老舗を営む藤井壽人氏（昭和29年卒）は、「長野高校木造校舎を守る会」の世話人代表を引き受け、同級生の丸山氏（前出）と対立することになってしまった。守る会では建築の専門家の鑑定も得た上で新聞全面の意見広告を出した。

「校舎の保存運動がOBの単なる懐古趣味ではなく、歴史と文化の継承のためであることを広く訴えました」

改築問題は地元の人々の関心も呼び、親しかった同級生、教職員、町の人々が二つに割れた。数年にわたって論争が続いた末、校舎は正面の棟のみが保存された。新校舎も平成7年に竣工し、古い校舎は有形文化財に指定され、同窓会館として活用されている。



保存運動によって取り壊しを免れた旧校舎

会館は2階が自習室として開放され、生徒たちにも親しまれている。

生徒会vs.新聞部

難産の末に生まれた新校舎を見てみよう。センター試験を終えたばかりの若林壮太君（3年）が、二次試験前にもかかわらず案内役を買って出てくれた。

校舎は旧校舎を模してロの字形に建てられている。建物の内部は完全に木造だ。床、壁、戸や階段の手すりにはめられた格子がライトなウッドカラーで統一され、真っ白な天井とよく調和している。何より廊下の広さに驚いた。特にコーナーにはもう一部屋できるのではないか（貧乏性の考えだが）と思えるほどのスペースがある。開放感溢れる吹き抜けの階段は、「シンデレラ階段」と呼ばれているそうだ。校舎というよりリゾートホテルを見学しているようで、中庭を眺めながら思わず大きく伸びをしてしまった。

高校の部室とは「汚い」の代名詞だと思っていたのだが、班室棟（部室棟のこと。長高ではクラブ活動を班活動という）も校舎と統一された仕様で、信じられないほどきれいだ。

校舎の1階には古色蒼然としたプレイエル（フランスのピアノメーカー）のピアノが鎮座している。明治32年の冬、全校生徒が申し合わせて暖房を断ち、節約した練炭代で購入したもので、「神聖なピアノ」と呼ばれる。象牙の鍵盤を叩くとパイプオルガンに似た音色を聞かせる。近くの壁にはOBの故・池田満寿夫氏（昭和27年卒）の油絵もさり気なく掛かっている。校内を探検すると、ほかにも著名な卒業生による書や絵画などのお宝がざくざく発見されるらしい。

若林君は昨年9月まで生徒会長を務めた。応援団長も兼任だ。長高では生徒会役員たちが応援団常任（ジョーカンと呼ばれる）となって新入生の

納得！日本の言葉

3/17 月曜 大安

●ヘビロテ

女性誌などでよく使われだしているファッション用語で、「お気に入りの」や、「使いやすい」などの意味がある。元々は、ラジオ局やクラブなどのDJたちが、気に入った曲やお薦めの曲のことを、レコード盤を頻繁に回すという意味から、〝ヘビーローテーション〟と呼び、それを〝ヘビロテ〟と略した言葉。

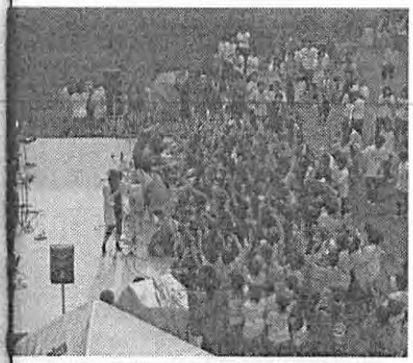
ファッション業界でも同様に、お気に入りで、何度も使い回しができるという意味で使うようになった。〝ヘビロテの服〟や〝ヘビロテのベルト〟というと、デザインがシンプルで飽きがこず、重宝する服やベルトという意味になる。

人・空気・未来
高砂熱学工業
http://www.tte-net.co.jp/

クラスを回り、校歌や応援歌、拍手の指導をする。いまでは通過儀礼のようになっているが、かつては厳しい指導に倒れる新入生もいたので、救護係が待機したという。

「昨年夏は野球班が39年ぶりに県大会決勝に進出。観戦に見えた年配のOBのみなさんが応援歌の振り付けを完璧に覚えているのには驚きました」

生徒会には地味な役回りもある。金鵄祭の騒音で迷惑をかけるからと近隣を一軒ずつお詫びに回り、桜並木の落ち葉を掃き、雪かきもする。


一貫実剛健の健児たちもこの日ばかりははじける

さて、校舎の隅々まで見せてもらったが、新聞部の部屋だけは、若林君はドアのノブにさえ触れなかった。

「僕がこんなところをウロウロしているのを見つかったら、何を言われるかわかりませんから（笑）」

生徒会の天敵は新聞部だ。長高生徒会の機構は執行機関、議決機関、監査機関が三権分立し、新聞部と放送部が第四の権力として機能している。例年、生徒大会では生徒会と新聞部が火花を散らす。昨年は会計事案を巡って動議の応酬があった。まず、生徒会原案に新聞部が何十年ぶりかの「棚上げ動議」なるものを出してきた。生徒会側はすかさず「修正動議」を出した。

「動議には採決の優先順位がありますから、『棚上げ』より先に採決される『修正』で対抗したわけです」

相手が何を言ってくるかを想定し、大会前に十分準備していたのだ。

新聞部は全国コンクールでたびたび優勝する名門だ。昭和23年発刊の『長高新聞』（発刊当時は『北高新聞』）年10回のペースで発行している。身近な話題から時局の解説、筆者のポリシーをしっかり打ち出した部説など、非常に内容の濃い新聞で、縮刷版まで発行されている。

新聞部OBの中央大学法科大学院1年の山口春彦君（平成12年卒）は、当時の塚田佐長野市長（昭和29年卒）の取材許可が下りず、諦め切れずに長野オリンピック開催中の会場まで追いかけてコメントを取った。吉村午良長野県知事（故人・昭和18年卒）のアポなし取材にも成功、後日知事室からのクレームも受けている。

それぞれの至誠一貫

「長高新聞部で『愚直に何にでもトライする』という精神を身につけたからこそ、いまの僕があります」

山口君は卒業後、自衛隊に入隊、海外派兵に備えて予防接種を受けつつ通信制の大学で学び、法科大学院に合格を果たした。大先輩である最高裁判所判事の才口千晴氏（昭和32年卒）に憧れ、司法試験突破に向け猛勉強中だ。

長野中学時代の記録を見ると、卒業生の進路は法曹界、官吏、医師が圧倒的に多い。その流れは現在も続き、才口氏をはじめ、元経済企画庁長官の田中秀征氏（昭和34年卒）、福岡高等裁判所長官の篠原勝美氏（昭和37年卒）、元特許庁長官の荒井寿光氏（同）、テレビでもお馴染みの北村晴男弁護士（昭和49年卒）、認知脳科学者の中沢一俊氏（昭和54年卒）などが活躍中だ。

才口氏は長野北高時代の最後の卒業生で、同期会は「ベーラス（北ラス）会」という。ベーラス会には劇作家の別役実氏や山階鳥類研究所長の山岸哲氏がいる。

「べっちゃく（別役）はクラス対抗の仮装行列で演出の才能を発揮し、優勝をさらっていた。クラスメートの交換日誌『声』のタイトルを『悲鳴』に変えたりして、おもしろい発想をする仲間だった。山岸はハラに蛇を巻いたり、あそこにナントカという鳥がいる、と鳥の名前にも詳しいし、見つけるのも早かった。二人ともまさに秀でた才能を生かす道に進みましたね」

才口氏自身は書道班に所属していた。長高の小山校長に請われて最近、「常思郷（いつもふるさとを思う）」と揮毫している。判事就任の年、OBとして母校で講演したところ、法学部を志望する生徒が一段と増えたという。

最高裁の判事室には、長高のモット－「至誠一貫」を掲げている。

「誠実に、適正かつ迅速な事件処理をしようと、自分を叱咤激励しているのです」

至誠一貫の長高は、猪瀬直樹氏（昭和40年卒）、日垣隆氏（昭和52年卒）、青沼陽一郎氏（昭和62年卒）、小林照幸氏（同）といった気鋭のジャーナリストも輩出している。

日垣氏は弓道班で弓をひき、

納得！日本の言葉

3/18 火曜 赤口

●農家ステイ

地方の農家に滞在し、農作業を体験したり、地元の人とふれあったりする旅行のこと。ちなみに、語学留学やワーキングホリデーなどで、海外の農家に滞在することは、ファームステイと呼ぶ。

大都市の中学・高校では、修学旅行の日程に、この農家ステイを組み入れるところが増えている。農家で、数人のグループに分かれて２～３泊し、農産物の収穫や家畜の世話などを手伝ったりする。都会の子供たちには、農作業や農家の人たちと食卓を囲むことなどが、新鮮な体験となり、社会のマナーを学ぶのにも役立つと好評である。

第一三共ヘルスケア
24時間戦えますか。

Regain
肉体疲労時の栄養補給、滋養強壮に

前々回は、埼玉県立浦和高等学校と神奈川県立湘南高等学校、
前回は開成中学・高等学校でした

次回は宮城県仙台第一高等学校と宮城県仙台第二高等学校を紹介します

「班長に選ばれたら謹んでお受けしようと思っていた……」

が、選ばれなかったので、リーダーシップは生徒会活動で存分に発揮された。当時も生徒会と新聞部は犬猿の仲だったそうで、金鶏祭実行委員長としてしばらく中断されていたファイヤーストームの伝統を復活させ、それを「全員参加」としたところ、新聞部が制作する壁新聞で叩かれた。もっともファイヤーストーム自体は、前日に雨が降ったにもかかわらず、参加者たちが協力して雑巾で水を拭き取り、大盛況という結果を残した。「テント村」も発案し、成功させている。中庭にいくつもテントをしつらえて、テントごとに違うテーマを討論するのだ。

「テーマは硬軟いろいろ。『異性にモテるには?』のテントは大勢集まった。恋愛論議も理詰めで勝負しなければいけない。追うより追われるのが基本だなんていうことをロジカルに説明するんです。他のテントでは、日本国はこのままでいいのかとか、朝鮮半島はどうなっているとか、考えたこともなかったテーマが出てきて、自分の視点の欠落に気づきました」

高校生たちの討論は朝まで続いた。

近年にわかに脚光を浴びた、硫黄島最後の指揮官である故・栗林忠道陸軍大将も旧制長野中学の卒業生だ(明治44年卒)。「質実剛健」の人として卒業生や生徒たちの尊敬を集めている。

「長野高校の人たちは優秀です。勉強は任せた(笑)」(深志高生)

「さまざまな伝統を守ることはたやすくありません。それができる深志はすごいと思います」(長高生)

宿命のライバル校に学ぶ現在の高校生たちは、屈託のない笑顔で話し、ライバル意識を顕(あらわ)にすることはなかった。しかし、長野県では出身大学よりも出身高校を聞かれることが多いといわれる。知事、市長をはじめ自治体や企業の要職には深志高と長高の出身者が多く、選挙や人事異動のたびに就任したのはわが同窓生か、ライバル校の出身者かで両校のOBたちは一喜一憂している。宿命のライバル対決はいまも続いているようだ。

長野県は現在、東大合格者数や現役進学率の観点からは、教育県としての復権は未だ達成されてはいないのかもしれない。しかし、取材に応じてくれた両校の生徒たちが例外なく、語尾を上げたり延ばしたりせずにきれいな日本語を話すこと、少し方言もまじえて敬語を正しく使っていること、そして何より、自治の精神と地域の一員としての自覚を持っていることに、教育県の本領はしっかり受け継がれていると私には思えた。

まもなく、先輩の熱い指導を受けた新入生たちの絶唱が、松本の空にも長野の空にも響きわたる季節だ。

こみね・あつこ フリー・エディター&ライター。『トップスポーツビジネスの最前線』全4巻、『世界の貧困問題をいかに解決できるか』などを編纂

©松本深志高校新聞委員会(P.218)、五味千万人松本深志高校教頭(P.220)、北原法一長野高校教諭(P.226)

第138回
(2007年下期)
芥川賞候補作

カソウスキの行方
津村記久子
好きになったということを仮定してみる
郊外の倉庫管理部門に左遷されたイリエ(28歳)は日々のやりきれなさから逃れるため、同僚の森川を好きになったと仮想してみることに……。
定価1,470円(税込) ISBN978-4-06-214537-4

空で歌う
中山智幸
妻に内緒で 兄の彼女と 旅に出た
突然、兄の恋人と旅に出ることになった男。
現代文学、期待の新鋭が描き出す「自転からはぐれたみたいな」孤独——
定価1,575円(税込)
ISBN978-4-06-214536-7

祝 芥川賞受賞
話題の作家の処女小説 川上未映子
わたくし率 歯ー、イン または世界
デビューと同時に絶賛された文筆歌手が魅せまくる、かくも鮮やかな言葉の奔流!
リズムの応酬! 問いの炸裂!
〈わたし〉と〈私〉と〈歯〉をめぐる疾風怒濤のなんやかや!
定価1,365円(税込)
ISBN978-4-06-214213-7
©Ayumi Okamoto

講談社 お近くに書店がない場合、インターネットからもご購入できます。 http://shop.kodansha.jp/bc/